

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ5月-

～山野草観察会と石窯でピザを焼いてみよう!!～

5月17日(日)は、この時期らしい素晴らしい天候に恵まれて、楽しいひと時を過ごすことができました。
一桧山での自然観察会では、「チゴユリ」、「ユキザサ」などを見つけては写真に収めたり、天然ものの「ウド」などの山菜も見つけることができました。

森林科学館に戻ってきてからは、ピザの調理教室をおこないました。山菜をトッピングした焼きたてのピザを、参加された方々はおいしそうにほおばっていました。

食後には、この付近に生息する「ツキノワグマ」や小鳥たちのお話があり、人間と動物たちの関わりを考えるよい機会となりました。

5月8日に、高清水幼稚園の先生と園児が来館しました。また、5月26日には花山幼稚園の先生と園児も来館し、地元の子供たちに身近な施設となってきました。これからも、自然を育て守るために、いろいろなイベントを予定しておりますので、ご参加をお待ちしております。



〈山野草の観察〉



〈トッピング!!〉



〈ピザはおいしい!!〉

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大友さんのコーナーです

命をつなぐ子育ての季節です。

一足先に巣だったカワガラスに続いて本格的に子育てが始まりました。

①今年も雨戸袋にキセキレイが巣作りをはじめました。今年で4年目になります。写真は巣の材料をくわえ巣の前で警戒するメスです。

②ヒヨドリが藪から巣の材料をくわえて出てきました。縄張り争いも一段落し、つがいで飛び姿をよく見かけます。

③湿性植物園のテーブルに止まったオオルリです。花の咲く低木に止まっていたのを見逃しました。残念・・・注意力が足りない!

アカショウビン、サンコウチョウそしてクロツグミ、声はすれども見つけられません。う～ん・・・何とか粘るしかないですね。(大友)



〈①キセキレイ〉



〈②ヒヨドリ〉



〈③オオルリ〉

ミツケ! こもれびの森 こもれびの森でみつけたよ

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

今年も丸裸に?

科学館の裏に2mほどのサワフタギがあり、5月下旬の花の時期は多くの虫達が訪れる。白い小さな花房にはハチやチョウ等が入り替わり蜜を吸いに来る。中でもダントツで多いのはホタルガの幼虫で、今年も百匹近い幼虫が集まっている。サワフタギはホタルガの食草(樹)のひとつであり、本能が呼び寄せるのであろうか、毎年、忘れずどこからともなく集まってくるから不思議である。

サワフタギは、別名をルリミノウシコロシという。ルリミノは、きれいなルリ色の実が生ることからついている。しかし、ここのサワフタギは実には至らない。これから夏にかけて幼虫に丸裸にされてしまう。サワフタギが、懸命に葉を茂らせるのはホタルガの幼虫にご馳走するため頑張っているような気がしてならない。(は)



〈ホタルガの幼虫〉



〈様々なお客様①〉



〈様々なお客様②〉



〈様々なお客様③〉

まめちしきコーナー

"花や木などのチョットした知識"

～「ブナの木は気まぐれ!!!」～

森林科学館内のブナが開花しました。ブナは、その姿が雄大で美しいことから「森の女王」と呼ばれます。さて、ブナの花がたくさん咲いたので、実もたくさんつくのかというと、そうはなりません。ブナの実(堅果)は、5～7年の周期で豊凶の波があるとされています。(前々回の豊作はH17年、前回はH25年)

一般的に実をつける木は、動物に実を食べつくされるのを防ぐため、一定の豊凶の波をもちます。この現象を「マスティング」といいます。つまり、不作年を設けて動物の数を減らし、動物が減ったところで豊作にすると、動物が食べきれないほどの実となり、子孫を多く残せるという仕組みです。

今のところ仮説ではありますが、ブナはこの戦略で生き残りをはかってきた樹木といわれています。豊作期の翌春には、1ha当たり10万本以上というおびただしい幼木が芽生えます。

ただし、ブナの場合は豊凶の周期ははっきりせず、さらに開花したからといって実をつけるとは限らないので、実が大好きなクマさんにとっては、大変困った木であることは確かかなようです???(千葉)



〈ブナの花〉

雌雄異花で、雌花は枝の上部に上向きに咲き、雄花は丸い房になり、数個が垂れ下がる。

雑記

先日、義理の叔父の告別式で、友人と4人の孫からのお別れの言葉を聞き、今まで知らなかった叔父の多くの側面を知り、もう少し叔父から色々お話を聞き教えてほしかったなと、つくづく思うところがありました。そして、知るということは何気ない生活の中にも努力が必要なこと気づかされました。今、私たちの周りには小さなことから地球レベルまでさまざまな問題が山積しています。その中で、知ること、学ぶこと、そして自分自身で考え判断することがとても大事なことでないかと改めて思っています。「森林科学館」で自然に親しみ、植物のこと、動物のことに思いを巡らし、地球環境なども考えるきっかけとなれば幸いです。

宮城県こもれびの森「森林科学館」(山本)